

記者発表資料
水管理・国土保全局
砂防部砂防計画課同時発表

平成 26 年 10 月 1 日 18 時 00 分
中部地方整備局

御嶽山周辺地域における今後の降雨に対する 土砂災害に関する注意事項

国土交通省中部地方整備局は、平成 26 年 9 月 27 日に発生した御嶽山噴火に対し、今後の降雨に対する土砂災害に関する注意事項を別紙のとおり、長野県、岐阜県、木曽町、王滝村に提供したので、お知らせします。

なお、この情報は、土砂災害警戒区域等における土砂災害防止対策の推進に関する法律第 29 条第 2 項に基づく情報の随時提供です。

問い合わせ先	
国土交通省水管理・国土保全局砂防部砂防計画課地震・火山砂防室	
室長	岡本 敦（内線 3 6－1 5 1）
課長補佐	山越隆雄（内線 3 6－1 5 2）
代表	0 3－5 2 5 3－8 1 1 1
直通	0 3－5 2 5 3－8 4 6 8
F A X	0 3－5 2 5 3－1 6 1 0
国土交通省中部地方整備局 水災害予報センター	
TEL	0 5 2－9 6 1－3 0 4 9

別紙

御嶽山周辺地域における今後の降雨に対する土砂災害に関する注意事項

9月27日以降の噴火により火山灰が堆積した範囲では、少ない雨で火山灰が流出し、土石流が発生する可能性があります。今回の噴火による火山灰の顕著な堆積範囲は山頂付近と王滝川支川濁沢川流域となっています。

山頂付近の火山灰の影響がある流域は鹿ノ瀬川、湯川、白川、濁沢川であるが、鹿ノ瀬川、湯川、白川は、火山灰の範囲から判断して、現在予想されているような通常の雨では、集落までの距離も長いことから、集落に達するような大規模な土石流のおそれは小さいと考えられます。

また、濁沢川から王滝川へ合流するまでの区間に人家はなく、さらに王滝川から牧尾ダム湖までの集落が高い所にあるため、集落に達するような土石流のおそれは小さいと考えられます。

なお、御嶽山における1979年10月の同程度の噴火から1週間後に降った時間雨量10mm総雨量39mmの降雨では、集落に及ぶような土石流被害等は発生していません。

しかし、現在予想されているような通常の雨であっても、河川において、火山灰の影響で通常以上の増水が発生するおそれがあることから、降雨時には、河川、溪流沿いの土地の立ち入りは避けるとともに、川沿いの家屋に居住している方にはより安全な場所への避難を呼びかけてください。

また、御嶽山周辺では、大雨の際には、土石流による被害に対する警戒が必要であり、土砂災害警戒情報等に注意し、避難体制を確立するなど適切に対応してください。

今後、調査の進捗により、随時、情報提供を行って参ります。